

# 作業学習（窯業） 学習指導案

指導者 堅本 恭寛  
新田 幸世  
栗田 早苗

1. 日時 平成20年11月18日（火） 第1～6校時 9:00～15:15
2. 場所 窯業室（通学高等部棟）
3. 対象生徒 2年生窯業グループ7名（男子5名、女子2名）
4. 単元名 小鉢、四角皿、葉皿作り
5. 単元の目標
  - ・ほうれんそう（報告・連絡・相談）を中心としたコミュニケーションの力をつける。（あいさつ、返事、報連相）
  - ・製品製作をとおして、望ましい作業態度を身に付ける。（服装、作業態度）
  - ・工程に沿って準備物をそろえたり、作業工程を正確にこなす力をつける。
6. 生徒の実態

窯業グループ7名中5名が発達障害の診断を受けている。また、障害の種類や程度の幅はあるものの、耳からの情報よりは視覚からの情報や直接操作による情報の方が処理しやすい傾向がある。作業を実際に行うに当たっては、言葉だけの指示はなるべく避け、指導者が直接示範したり、イメージを視覚化できるような補助具などを用いて指導すると、工程を理解し定着しやすい。

作業態度については、ややもすれば低きに流れる傾向があるが、全員で声出しをするなど望ましいモデルを示すと、素直に取り込もうとする生徒がほとんどである。
7. 単元設定の理由

2年生においては、1年生の積み上げをもとに、従来よりたたら成形と機械ろくろ及び電動ろくろを使った高台削りを行っている。生徒の実態やねらいに応じて、その中から適した作業内容を選択して取り組んでいる。

作業活動にあたっては、ていねいに製品を製作し1年生の時より良質な製品を製作するために、それぞれの工程内で各自の課題に注目させて作業活動に取り組むようにしている。以上の点に基づいて、本単元を設定して生徒の課題を焦点化して取り組んでいる。
8. 指導計画（全97時間）
  - ・窯業コースの概要を知る・・・2時間
  - ・作業工程の説明と確認・・・3～12時間
  - ・工程に沿って製品を作る・・・13～97時間（本時は80～86時間目）
9. 本時の学習
  - (1) 本時の目標
    - ・報連相をしっかりとする。
    - ・工程の確認をして、準備物をそろえる。
    - ・工程に従って、ていねいに小鉢・皿を製作する。

(2) 個別の実態と目標、および手だて (□が目標、○が手だて)

個別の実態と目標、および手だて		個別の実態と目標、および手だて	
I H	<p>知的障害・アスペルガーの特徴有する。言葉による指示が入りにくい。作業ペースがマイペースになってしまう。</p> <p>□指示を理解して、準備から作業までの流れに見通しを持って活動ができる。</p> <p>□自分自身で道具や製品を用意して、正確でスムーズな作業ができる。</p> <p>○指示を出すときには、単文で(2~3語文)はっきりと伝えること。できれば復唱させる。</p> <p>○手順書(工程の流れでとらえられるカード)を用いて、工程に見通しを持たせる。</p> <p>○見本と見比べて作業の完成度を確認させる。</p> <p>○時計やストップウォッチを用いて時間を意識させ、作業ペースもあげる。</p>	T M	<p>軽度認知障害・もやもや病、体調不良をよく訴える。</p> <p>通常の感性を持ち合わせている。良い製品を作りたい気持ちが強い。</p> <p>□自分自身の体調に合わせてながら、良製品を多く作る。</p> <p>○体調不良時の対応を柔軟にする。(時間を限ったクールダウン、保健室での休憩)</p> <p>○ていねいに細かく作業ができるので、作業工程で工夫をさせる。</p> <p>○目標時間を設定して作業を進める。</p>
M S	<p>PDD(広汎性発達障害)</p> <p>初めての作業場面では、拒否の態度をとることが多い。汚れや薬品に対するこだわりや恐怖が強い。</p> <p>作業場面に見通しがもてると落ち着いて活動ができる。</p> <p>□こだわりを少なくして、作業活動のよいパターンを身につける。</p> <p>○質問回数を制限して、こだわりを減らす。</p> <p>○手順書(工程の流れでとらえられるカード)を用いて、工程に見通しを持たせる。</p> <p>○言葉より文字による指示を多用する。</p> <p>○工程ごとに準備物を書いたカードを用いて、定着を図る。</p> <p>○終わりが分かりづらい活動時には、自分で区切りがつけられるようにタイマーを用いる。</p> <p>○ぞうきんを使い分けたり、工程によっては、手袋を使ったりする。</p> <p>○作業中の動きについては、終わりが分かりにくいので、数を読むなど、音声化して理解しやすいように支援する。</p>	F Y	<p>LD(視覚)、転導性高い。事故のため手指、下肢にマヒあり。</p> <p>作業が学習は好きだが、落ち着きがなく集中力が持続しない。</p> <p>□集中を持続しながら、良製品を多く作る。</p> <p>○時間(時計)を意識しながら作業を進める。</p> <p>○集中力の減退時には、数分間の休憩を自主申告してとる。</p> <p>○ていねいな作業ができるので、工夫を入れる場面もつくる。</p> <p>○報連相の力を伸ばすための支援</p>
N K	<p>知的障害・PDD(広汎性発達障害)</p> <p>作業では落ち着いてていねいな活動ができる。</p> <p>□してほしい支援内容を正確に伝えることができる。</p> <p>□良製品を多く作る。</p> <p>○報連相を正確にするためのカード(指導者の指示がないと活動できないので、ヘルプの出し方や質問の仕方を具体的に示す。)</p> <p>○イメージを視覚化するための補助具</p>	Y K	<p>てんかん、場面緘目の時期があった。</p> <p>初めての場面で緘目傾向あり。落ち着いてていねいな作業ができる。</p> <p>□正確な報連相をするとともに、良製品を多く作る。</p> <p>○報連相を正確にするためのカード</p> <p>○イメージを視覚化するための補助具</p> <p>○時間を意識して作業を進める。</p>
F H	<p>知的障害・広汎性発達障害(視覚優位)の特徴・非定型自閉症、前向きに取り組むが、おおざっぱなところが多い。</p> <p>□勢いにまかせずに、落ち着いて、ていねいな作業をする。</p> <p>□相談や報告する能力をさらに伸ばす。</p> <p>○作業を正確にするためのカード</p> <p>○イメージを視覚化するための補助具</p>	共通する手だて	<p>(1) 全員で声出しをして望ましいモデルをしめす。</p> <p>(2) 黒板やカードを活用して情報の視覚化を図る。</p> <p>(3) ○×による分かりやすい評価を入れる。</p> <p>(4) セルフチェックをして自己評価をする。</p>

(3) 本時の展開

	学習活動			T 1 T 2の動き	指導上の留意点
導入	○作業内容の準備  ○打ち合わせ ・各自の目標の発表 ・各先生より ・目標の再確認 ・諸注意（ルール・体調） ・作業内容の確認 ・声だし（服装チェック）			<ul style="list-style-type: none"> <li>適宜指示をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指示書や準備カードを手がかりに準備するよう支援する。</li> <li>各工程での具体的な目標がでるよう支援する。</li> </ul>
展開	○作業開始 ・各チームで打ち合わせ			<ul style="list-style-type: none"> <li>各チームに分かれて指導する。</li> <li>準備物の再確認をする。</li> <li>準備時間などを設定して、時間を意識した動きを促す。</li> <li>工程が変わったときには、活動内容の再確認をする。</li> <li>かたづけの方法や時間を具体的に指示する。</li> <li>丁寧な作業ができたときや目標に沿って活動できたときには、しっかりと評価をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人ごとの手だてに注目して指導する。</li> <li>生徒がセルフチェックシートやカード目標を目標に活動するよう支援する。</li> <li>自分でたてた目標を振り返り、目標を焦点化できるように支援する。</li> </ul>
	小鉢チーム	四角皿チーム	葉皿チーム		
	○高台削りの開始	○たたら成形の開始	○たたら成形の開始		
	○機械ろくろによる成形	○製品の磨き	○製品の磨き		
	○かたづけ	○かたづけ	○かたづけ		
	○そうじ ・分担に従って各自掃除をする。			<ul style="list-style-type: none"> <li>分担に従い手早く掃除ができるよう指示をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>掃除の手順を確認したりやもれ落ちを気づくよう支援する。</li> </ul>
まとめ	○反省会 ・各自から反省の発表 ・各先生から				<ul style="list-style-type: none"> <li>セルフチェックシートに注目して反省できるよう支援する。</li> </ul>

(4) 評価

- ・望ましいあいさつや返事報連相ができたか？
- ・望ましい作業態度で参加できたか？
- ・必要な準備物をそろえて、工程に沿った作業が正確に行えたか？

## 10. 作業学習における支援や指導の視点

### ア 作業中での支援の実際

- ①製品作りで、見本を見せたり力のいれ具合や加減を伝えるときには、背後から手を添えて道具と一緒に操作して動かしたり（左右の間違があるため）、力を入れる量や長さを数値化して伝える。（5段階で3の力で、3つ読む間押さえる等）
- ②補助具や治具（補助工具）については、従来より積極的に使われている。さらに発展的に考えて、できる部分は積極的に取り入れる。（高さをそろえる印、形をそろえる型紙、正確な切り取りができるような型紙 etc）
- ③生徒が準備物等をそろえやすいように、準備物一式の写真を準備し、工程ごとの準備物などを自分でそろえるような手だてを講じる。
- ④指導者にヘルプを求めて伝える方法を事前に伝える。
- ⑤体調不良や集中力が続かないときに、休養やクールダウンをとる場面を保障する。
- ⑥不必要な質問をなくし、自分自身で考えて判断する場面を増やす。（先生これでいいですか？先生どうしたらいいですか？を減らす。）→補助具や治具（補助工具）の活用、準備カードで独自判断する場面も作る。
- ⑦指示を出すときには、主語述語をはっきりとして伝える。（2～3語文）指示内容を反芻させる。

### イ 作業打ち合わせ時の内容

- ①目標の設定  
作業態度面と技能面の2つの目標を各自設定する。「集中する」「がんばる」等という漠然とした目標は極力避けて、具体的な目標を設定する。指導者からも目標を示す場合もある。
- ②体調面の管理  
体調不良や集中できないときの解決方法を示す。（5分間いすに座って休む。保健室で10分間休む等）
- ④作業内容の確認  
今日行う作業内容の再確認をする。
- ⑤声だし  
作業中によく使うフレーズの声出しをする。

### ウ 作業学習で、従来より大切にしてきた事項

- ①望ましい服装や身なり
- ②ていねいな言葉づかい
- ③はっきりとした返事
- ④やる気を見せる。
- ⑤かげひなたなくこつこつと作業を続ける姿勢
- ⑥掃除をていねいに行う。

## 11. 参観の視点

- (1) 開校以来作業学習で大切にしてきたポイントは盛り込まれていたか？  
**服装、身なり、言葉づかい、こつこつと作業を続ける姿勢、ていねいな掃除など**
- (2) 生徒の実態に応じた指導方法と手だてが取られているか？
- (3) 現場実習、職場実習で会社から評価されている部分の指導はあったか？  
**元気なあいさつや返事ができる・素直な態度・やる気を見せるなど**